

全国救急隊員シンポジウムが高松市で開催

救急企画室

1 全国救急隊員シンポジウムとは

「第27回全国救急隊員シンポジウム」が、高松市消防局と一般財団法人救急振興財団との共催により、1月24日（木）と25日（金）の2日間にわたって、高松市(サンポートホール高松 他2施設)で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的に全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、その他関連する医療従事者など救急業務に関係する者が一堂に会し、実務的観点からの研究発表や意見交換を行っているもので、毎年1回、開催地消防本部と救急振興財団により共同開催されており、今年で27回目を迎えました。



第27回全国救急隊員シンポジウム（開会式）

2 今回のシンポジウムの内容について

今回のシンポジウムは、「歩む～救命 更なる一步を高松から～」というメインテーマを掲げて開催されました。

開会式直後の特別講演では『シアトル・キング郡（米国）における病院前救急医療の進歩～50年の歩み～』というテーマで、キング郡メディックワンのDonovan Marley氏より、シアトル・キング郡における病院前救急医療の歴史や現状などについての講演がありました。



特別講演『シアトル・キング郡（米国）における病院前救急医療の進歩～50年の歩み～』

一般発表では、救急需要対策、関係機関との連携、指導救命士・救急隊員教育など11テーマの演題が発表され、それぞれのテーマについて、研究発表や各地域の先進的な取組の紹介が行われました。その他、4枠のシンポジウムや、8枠のパネルディスカッションなどが行われ、それぞれの会場で活発な議論が交わされていました。

スキルレクチャー『テロ災害等の対応力向上～新たな資器材（ターニケット）の取扱方法について』では、昨年度に消防庁が作成した「テロ災害等の対応力向上としての止血に関する教育テキスト」を活用し、指導者となる職員に対して、実技や指導方法のアドバイスなどを行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。



スキルレクチャー『テロ災害等の対応力向上～新たな資器材（ターニケット）の取扱方法について』



スキルレクチャー『テロ災害等の対応力向上～新たな資器材（ターニケット）の取扱方法について』

また、初めての試みとして、デジタルポスターセッションの導入や女性ラウンジの開設など、ICTの活用や女性活躍のための新たな取組が行われ、多くの参加者が活用していました。



デジタルポスターセッション

3 地元関係者の熱心な取組

香川県高松市での開催は今回が初めてでしたが、開催期間中、香川県内はもとより、全国各地から約6,700名（2日間総人数）の関係者が来場し、盛大なシンポジウムとなりました。これもひとえに、主催者である高松市消防局と一般財団法人救急振興財団をはじめ、地元医師会など関係各機関の皆様が協力してシンポジウム運営に当たられた御尽力の賜物です。今後も全国救急隊員シンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第28回全国救急隊員シンポジウム」は、2020年1月30日（木）及び31日（金）の2日間、宮城県仙台市において開催される予定です。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 名達
TEL: 03-5253-7529